

(曾於郡志布志町内之蔵東黒土田)

位置と環境

東黒土田遺跡は宮崎県との県境で、前川上流の谷頭平地につきだした舌状台地（標高162m）に立地する。前面は水田で背後には丘陵が控えている。現地は階段状に開墾され、茶畑となっている。茶畑の南側前面は掘り下げて開墾され、一面に遺物が露呈して、遺跡である事が判明した。この開墾によって、茶畑の南側断面に、貯蔵穴が露呈したのである。

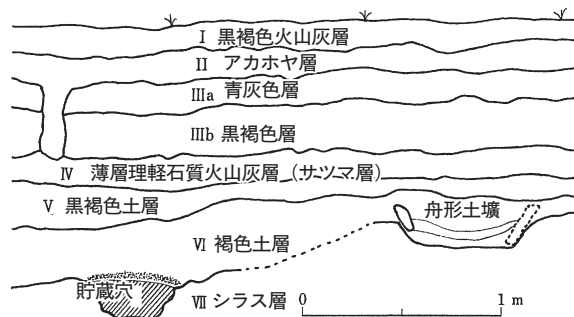
調査の経緯

瀬戸口望は、東黒土田の開墾によって露呈した遺物を採集し、鹿児島考古に発表し、遺跡について河口に紹介した。遺跡地は、開墾によって南側に地層断面が露呈し、シラス層・サツマ層・アカホヤ層などの鍵層が一目で判明する又とない良好な遺跡地であった。ただ難点は茶園として現在経営されている立派な茶園であって、発掘できる可能性はほとんどなかった。遺跡地の南側の端に一流れのトレンチを設けて発掘する事とし、瀬戸口と河口が、昭和55年12月26日～30日の5日間発掘を行った。

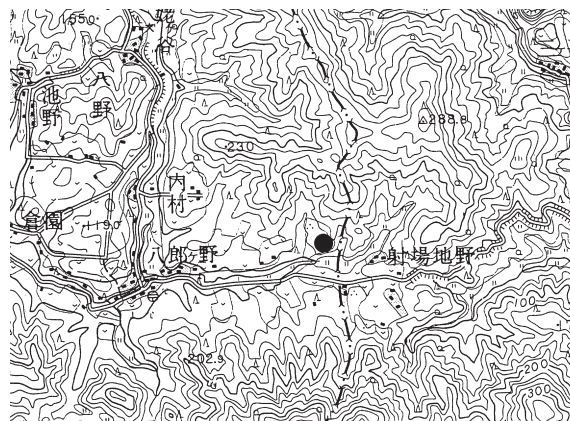
遺構と遺物

遺跡地は基盤のシラス層（始良カルデラ起源・約2,200年前）まで深さ1.4mあって7層に別れ、地表から二層目にはアカホヤ層（鬼界カルデラ起源・約6,300年前）、四層目にはサツマ層（桜島起源・10,063～11,200年前）が堆積して層序判別の明瞭な基準となっている（第2図）。

第三層と第五、六層が包含層である。第三層からは縄文早期の遺物が出土し、第五、六層からは、縄文草創期の隆帯文土器および匙形磨製石斧（第3



第2図 遺跡地層図



第1図 東黒土田遺跡の位置

図）と、舟形の石組炉・堅果の貯蔵穴が発見された（写真1下）。

舟形石組炉は、トレンチの東よりに、六層下部から出土した。トレンチ北壁に基部が始まって南々東方向に、長さ165cm、幅76cmの、舟の形に似た石組が発見された（写真1上）。凝灰岩・安山岩の大小の角礫を、上の開いた、逆ハの字形に組み込んだ石組で、焚き火の跡があつて炉と思われる。

堅果の貯蔵穴はトレンチの中央よりやや西に出土した。第6層最下部からシラス層に掘り込まれたものである（写真1下）。直径40cm・深さ25cmの鍋状の貯蔵穴である。内部には暗褐色の堅果がぎっしり詰まり、上面は薄い褐色の土に覆われていたのは、木の葉で覆っていたものであろう。一万年を越える木実の貯蔵穴は、発見されたことがない。専門の粉川昭平に見て頂いた。子葉に大小がなく、形に逆三角形が多く、楕円形は少なく、すべての子葉離れている。この理由から、イチイガシではなく、クヌ



写真1 舟形石組炉と堅果貯蔵穴

ギ・アベマキ・カシワ・ナラカシワのような落葉性の *Quercus* である可能性が強いという。この木の実による¹⁴C年代測定では、11,300年±130y・B・Pである。渡辺誠によれば、ブナ科植物の実を渋抜きするには、煮沸を繰り返すことが必要であるという。この遺跡で得られた堅果を食用に供するためには、土器が絶対に必要で、当時の気候は現在より冷涼で、現在の1,000m級の霧島頂上部気候に類するものであった。この地域はブナ科植物の森林に覆われていて、堅果を食物とする暮らしであったであろう。

匙形石器（第3図下）は第5層の出土である。現長5.2cm、幅4.8cm、厚さ1cmの頁岩製の磨製石斧である。中窪みのサジ状を呈し、舟などの内部の様な窪んだ部分を削るのに用いた特殊な用具である。頭部を欠損しているが、用途に合わせて製作された進だ石器である。

土器は第3層から縄文早期の土器が2片、第5・6層から縄文草創期の土器10片が出土した。その内の第6層の特徴のある物を上げる。第3図上の左の土器は口縁部で、やや内彎し、口縁下に三角凸帯を巡らし、上に凹点を並べ、下に親指による凹点を巡らしており、僅かに爪痕を残す。第3図上右の土器は底部である。器壁は厚く特に底部は1.5cmと厚い。共に草創期である。比等の土器が堅果の煮沸に用いられて灰汁抜きに使用されたものであろう。

南九州には縄文時代草創期の遺跡は多いが、木の実の出土した遺跡は、東黒土田遺跡以外には一か所

もない。希であるという意味で貴重というのではない。南九州縄文草創期の文化の実態を知るカギとなるからである。東黒土田出土の堅果は、落葉広葉樹林の存在を示すもので、当時は現在よりも冷涼な気候で、ブナ科植物が繁茂し、豊富な木の実が、貯蔵用食物として利用された。狩猟による、遊動的な生活と考えられた時代に、定住が行われたと考えられる。

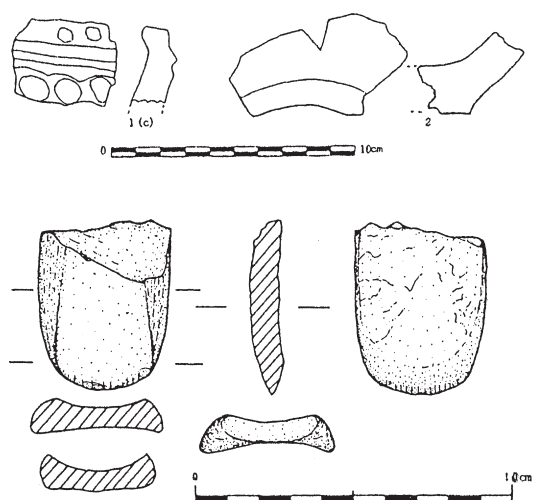
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県歴史資料センター黎明館に保管されている。

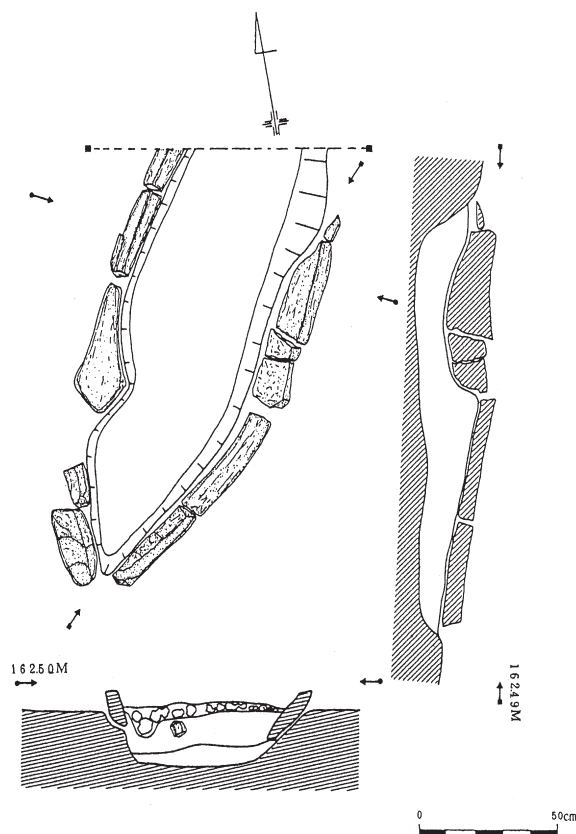
参考文献

瀬戸口望1981「東黒土田遺跡」『鹿児島考古』15号
 河口貞徳1998「鹿児島」『日本の古代遺跡』保育社
 渡辺誠 1975『縄文時代の植物食』雄山閣

（河口貞徳）



第3図 上：6層の土器 下：匙形石器



第4図 舟形石組炉